JENESYS2018

事業名　水原市大学生訪日事業（招へいプログラム）の記録
（対象国：韓国，テーマ：自然との共生をめざして～『BOSAI』から学ぶ日本文化）

1.プログラム概要

韓国・水原市に在学,在住の大学生等 20 名が，1 月 10 日から 1 月 19 日までの 9 泊 10 日の日程で来日し,「自然との共生をめざして～『BOSAI』から学ぶ日本文化」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は，静岡市沿岸部の津波防災施設の視察や講義を通じて静岡市の防災対策について学ぶとともに，東日本大震災後に風評被害を受けた製茶会社を訪問し，静岡市の茶業の現状と課題について聴講及び意見交換を行いました。火山噴火や地震，津波等懸念される自然災害への対策，大学生による防災教育カリキュラムに特に強い関心を示し，各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。

また，高校生や大学生との交流，ホームステイで市民と交流を図ったほか，帰国前の報告会では当プログラムで学んだ知見を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【訪問地】

静岡県，山梨県，神奈川県

2.日程

1 月 10 日（木）

入国（富士山静岡空港），オリエンテーション

【文化体験】着物ボランティアグループによる着物試着，茶道体験

【交流】2015 年～2018 年度訪韓学生による歓迎会

1 月 11 日（金）

【表敬】静岡市副市長表敬,【講義・視察】「静岡市沿岸部津波避難対策について」

【交流】静岡県立駿河総合高等学校

1 月 12 日（土）

【講義】「静岡市茶業の現状と課題，風評被害」,【視察】有限会社ネクト（製茶業）

【講義】「中山間地『水見色』の現状と地域おこし」

【視察】水見色きらく市企業組合，餅つき体験,【交流】ホストファミリー対面式

1 月 13 日（日）

【交流】ホームステイ

1 月 14 日（月）
ホームステイから再集合，【視察】ふじさんミュージアム，富士山レーダードーム館

1 月 15 日（火）
【講義】「富士山の火山噴火とその災害～富士火山とともにどう生きるか？～」
【視察】山梨県富士山科学研究所，【視察】富士吉田市御師町，【文化体験】ほうとう作り

1 月 16 日（水）
【視察】箱根ジオミュージアム，箱根ビジターセンター

1 月 17 日（木）
【交流】静岡大学・防災教育ワークショップ

1 月 18 日（金）
成果報告会（訪日成果・帰国後の活動計画発表）

1 月 19 日（土）
出国（富士山静岡空港）

3. プログラム記録写真

1 月 11 日【表敬】静岡市副市長表敬（静岡市葵区）	1 月 11 日【交流】静岡県立駿河総合高等学校（静岡市駿河区）

1 月 12 日【講義】「静岡市茶業の現状と課題，風評被害」（静岡市葵区）	1 月 15 日【講義】「富士山の火山噴火とその災害～富士火山とともにどう生きるか？～」（山梨県富士吉田市）
1 月 17 日【交流】静岡大学・防災教育ワークショップ（静岡市駿河区）	1 月 18 日　成果報告会（静岡市葵区）

4. 参加者の感想（抜粋）

◆　韓国学生

・最も印象に残ったのは静岡の人々との交流です。国際交流協会の方々や副市長など普段会うことのない方々と接したり，静岡市の大学生や高校生と直接コミュニケーションをとることにより，自分の日本語能力を試すことができました。今回のプログラムで特筆すべきは，日本の防災対策を実際に体験し，見学できたことです。日本人は自然と共生するために，災害に備え，また自然を守ろうとしていますが，テレビや映画などのメディアを通じて見た時は非現実的であり，大げさだと思いました。しかし，自然に対する尊敬の念や防災を地道に実践してきたからこそ，発展し続けることができたことに気付きました。こういった点は韓国ではあまり見られないことです。自然への概念の違いから，考えの違いが生まれ，その小さな違いが大きな衝突に繋がったのかもしれません。

　お互いを知るためには，その国の文化を知らなければならないと感じました。日本を訪問するのは初めてだったため，想像の世界だった場所を実際に訪問し日本に少し近づいた気がしました。日本に関する報道を見る目も少し変わりました。滞在が長かったからか，もう静岡を懐かしく感じています。ぜひ，また訪問したいです。今回の訪日経験が今後の自分の目

標に向かって，一段ずつ階段を上がっていくための力になったと思います。もし，日本との交流に興味のある後輩や友達がいれば，ぜひ，このプログラムを勧めるつもりです。

◆ 韓国学生

・大学では工学を学んでいます。かねてより，技術には国境がないこと，また，技術交流に先立って，文化交流が先に行われるべきだと思っていました。将来の夢は，国家間の技術交流に携わることで，まさに，この研修で学んだことが，これからの私の進路において，大きな意味を持つと感じています。

日本は自然災害が多い国の一つであるため，当初，日本の防災について学ぶと聞き，日本の天気予報の技術や原理について学ぶことを期待していましたが，視察や講義で防災について学べば学ぶほど，自然災害は完全に防ぐことができないと思うようになりました。だからこそ，防災システムをより徹底的に構築すべきだと感じました。今後，所属大学の研究室で，熱と振動(地震)に耐えられる強い材料について研究する予定です。今回の訪日事業に参加し，日本人との文化交流を通じて，第二の故郷と呼べるような場所が静岡にでき，私の研究方向も定まりました。とても貴重な体験ができたと思います。

◆ 韓国学生

・最も記憶に残っているのは日本人との交流でした。互いにコミュニケーションを取ろうと努力した楽しい経験でした。本を通してしか知らなかった日本の家庭生活をホームステイで体験できたことが新鮮でした。短い時間でしたが，自然に日本語能力も高まり，日本文化をより一層理解することができたと思います。静岡大学よさこいサークルの学生から「このように韓国人と交流することはめったにないのでとても貴重だ」と言われましたが，もっと頻繁に両国の学生交流が行われるようになればと思います。若い世代の交流は，両国が互いに理解し合える「力」になり，関係をより発展させていくはずです。

今回のプログラムに参加することにより，日本文化への理解や日本語の上達以外にも，アクション・プランの準備や発表を通じて，私の進路にも繋がり，自分の夢に向かって，目標を立てることができました。その目標を達成するために必要なモチベーションも，このプログラムで得ることができました。情熱を失わないよう，今後も日本語の勉強に励み，自分ならではのアクションプランを実行していくつもりです。

また，今回得たことが多いだけに，ぜひこのプログラムを知ってもらえるように積極的に発信していきたいと思っています。

5. 受入れ側の感想

◆ ホストファミリー

・初めてホームステイを受け入れたため最初は緊張しましたが，韓国の学生が日本語を話せることもあり，私たち家族にすぐに溶け込んでくれました。両親はニュースで報道される韓国のネガティブなイメージを持っていましたが，学生が日本語を一生懸命勉強している様子や自分からどんどん話をしてくれる姿にとても感心していました。それからは韓国への偏見が少しなくなったように感じます。日本には何回か来たことがあっても静岡は初めてという

ことだったので，日本らしさ以上に静岡らしい，都会ではなかなか見られない自然豊かな場所に出かけました。同い年の女の子だったので，夜寝る前にこたつでお酒を飲みながら，大学や友達，恋愛の話をしたのがとても楽しかったです。韓国の学生と同様に，私たちも楽しい時間を過ごすことができました。

◆ 静岡大学学生

・韓国は 2014 年のセウォル号沈没事故の際に国家の安全神話が崩壊し，当時の韓国政府への不信感や衝撃がまだ癒えない時期にあります。事故を未然に防ぐ万全な体制を築くというよりは，個々人が自分の身をトラブルから避けることに意識が向きがちである印象を受けます。自然災害が日本ほど多くはないものの，日本の誇る安全性や危機管理体制を防災という観点から学びとることができたことは，韓国の若者に多くのことを考えさせ，自国に様々なアイデアやノウハウを持ち帰ってもらえたことと思います。

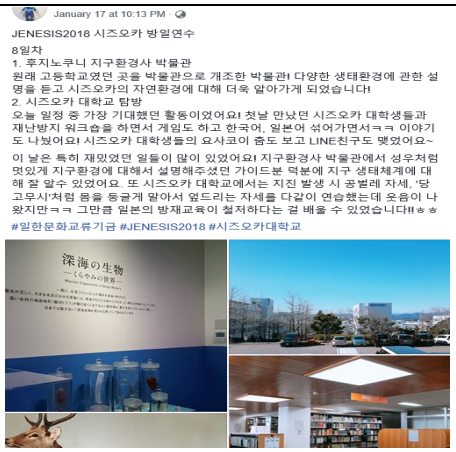
今回のプログラムで日本に招聘された韓国の学生は日本語専攻者が多いということもあり，日本語をよく勉強して来られて日本の伝統文化やポップカルチャーにも高い関心を示していました。防災をテーマとした学生間のディスカッションでは，日本語で一生懸命意見を述べようとする彼らの姿勢に感銘を受けました。言いたいことを全て日本語でうまく表現できず悔しい思いをした人もいたようですが，帰国後も日本語を勉強するモチベーションに繋がったようです。

韓国の学生は K-POP の歌やダンスで私たちを喜ばせるパフォーマンスを用意してくれていました。大勢の初対面のオーディエンスを前にしても物怖じしない姿を見て，自分もそうなりたいと思いました。恥ずかしがり屋の日本人ですが，海外からお客さんを招き入れる際にはもっと彼らのように個性や特技を活かしたパフォーマンスができればより良いおもてなしになったのかもしれません。そのためには私達日本人も日本文化への理解を深めなければならないと痛感しました。もし，また JENESYS で海外の学生が静岡に来ることになったら，自分はもっとユニークな方法で積極的に日本の魅力を発信できるようになりたいです。

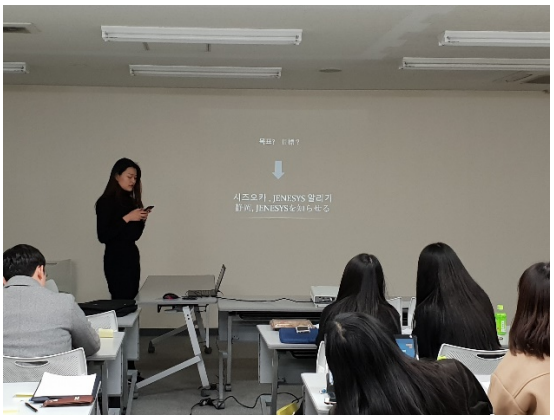
◆ 静岡市農業政策課職員

・静岡市の茶業の現状と課題について講義をしました。講義の冒頭は，韓国学生からの反応があまりなかったので関心がないのかと思いましたが，その後の質疑応答ではお茶の栽培方法や品評会，風評被害に関する質問が出て，テーマに対する関心の高さがうかがえました。今回の訪問を機に静岡市とのつながりを深め，再訪してほしいと思います。

6. 参加者の対外発信

<table>
<tr>
<td>
</td>
<td> 
</td>
</tr>
<tr>
<td>日本の防災についての発信
・二日目は静岡市副市長の表敬。韓国の青年代表として改まった場に参加したからか一言一言が緊張した。
・避難タワー，避難ビルも直接見てきたが，思ったより管理がきちんとされていた。
・バスに乗って町の中を見学しながら講義を受けたが，普段から災害への備えがいかにきめ細かく整えられているか知ることができた。</td>
<td>日本の自然環境と日本の大学生との交流について発信
・八日目に見学した「ふじのくに地球環境史ミュージアム」は，高校をリフォームした博物館！多様な生態環境に関する説明を聞いて静岡の自然環境について知ることができた。
・静岡大学訪問は，最も楽しみにしていた活動だった。静岡大学の学生と防災ワークショップやゲームをし，韓国語と日本語を混ぜてコミュニケーションを取った。学生のよさこい踊りも見て､LINE の交換もした。この日は特に楽しいことがたくさんあった。地球環境史ミュージアムで素敵な声優のように地球環境を説明してくださった方のおかげでよく理解できた。
また静岡大学では災害を想定し，体を丸めて身を守る「ダンゴムシポーズ」も体験してみた。面白く，かつ，日本の防災教育が徹底的に行われていることを学ぶことができた。</td>
</tr>
</table>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
アクション・プランの発表１ 今回の訪日経験で日本文化に対する理解が深まったので，帰国後は貿易に関する資格の取得や，日本と取引のある韓国企業を調べる。将来は日本の商社に就職する。	アクション・プランの発表２ 研修で学んだことや，一緒に参加した仲間の体験についてインタビューし，まとめたものを SNS で広報したり，大学の後輩に向けて発表したりする。今回と同じコースに友人を連れて行く。